

公表	事業所における自己評価総括表		
----	----------------	--	--

○事業所名	こどもサポート教室「クラ・ゼミ」北上上野町校		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日 ~ 2025年 11月 30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	43	(回答者数) 32
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日 ~ 2025年 11月 15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者一人ひとりに応じたプログラムをそれぞれの職員の持ち味のもと、立案考案しながら、職員間でも一人ひとりの課題を把握し、同じ意識で支援にあたっています。	常日頃から利用者の情報共有を行い、話し合う場を作りながら、個々に合わせた活動で、今、利用者が必要なこと、興味のあることを行えるようにしています。	引き続き、職員間での利用者の様子の共有、保護者とのやり取りの内容を活発に話し合えるよう会議の場を設けていきます。
2	イベントを通し、季節によって戸外での活動や異年齢での交流する機会を設けています。	定期的に開催し、異年齢でのやり取りや関わりを学びながらも、個別では見えない利用者の姿を把握し次の課題を見据えています。	イベントや小集団活動の頻度を増やし、積極的な参加を促します。また、集団での様子を保護者の方に伝えることで、課題の把握と成長の様子を共有できるようにしていきます。
3	座学からちょっとした運動まで行える環境となっており、バリエーションにとんだ、個々に応じた環境調整をしています。	パーテーションで室内を区切り、集中できる環境を整えたり、動くときには机等の配置を変えて、広い空間を保持できるよう環境を整えています。	片付けや、用具の選定などを行い、必要なもの、不要なものを常に見定めながら整理整頓を行っていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の方々との交流が難しく、どうしたら交流ができる模索中です。	SNSやパンフレットを通して、地域の方々への周知を行うが、交流できるイベント等を開催したことがないので、交流する機会がない状況です。	イベント内容を検討し、地域の皆さんにも参加いただける内容のイベント開催を企画していきたいと思います。
2	個別支援が基礎となるため年齢によって集団活動を取り入れることがで来ておらず、集団活動への課題を持っている利用者への適切なアプローチの難しさがあります。	個別支援に重きを置いていることや送迎が保護者メインとなるため、利用時間に差ができ、同年代での集まる場を設けることの難しさがあります。	イベントや同年代での小集団活動の頻度を増やしつつ、内容も年齢や利用者のねらいに応じて取り組んでいきたいと思います。
3	現在たくさんの利用者に利用いただいており、土曜日などの特定の曜日によってはご予約が取りづらくなってしまう時間帯もございます。	たくさんの利用者にご契約をいただき、皆様に使っていただいている。そのため、希望する時間帯や曜日が偏ってしまう現状があります。	本当に必要な支援を利用者、保護者とともに考え、課題を把握し、次のステップに進めるよう、支援内容等を話し合っていきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	こどもサポート教室「クラ・ゼミ」北上上野町校	公表日	2026年2月15日
	チェック項目	はい	いいえ
	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○	活動や利用者に合わせて必要なスペースの確保をそれぞれの職員がコミュニケーションを図りながらおこなっている。 限られたスペースの中で、利用者の組み合わせによっては制限がかかることがある。
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○	職員の状況に応じて利用定員を予約の段階で制限かけることもできるので、職員や子どもの状況に合わせておこなっている。 利用の予約方法について平等になるように周知を工夫していく。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○	生活空間がわかりやすいよう、案内をしたり、職員が前に立ち迷わないようにしている。 建物の構造上バリアフリーなどは難しさがあるが、階段には手すりをつけ、安全に過ごせるようにしている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○	利用者のいない間に掃除を行い、キレイに保てるようにしている。 利用者が常にいる状況の長期休み期間などは掃除がしにくいこともある。掃除の仕方に工夫していく。
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○	必要に応じて、クールダウンできる環境を整えながら、安全に配慮している。 別室や別空間はその時の利用状況によってとなるため、使えないこともある。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○	定期的に業務の見直しを行なながら、業務改善に努めている。 職員それぞれの請け負う仕事量、キャパシティによるため、常に職員の状況把握が難しい。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○	保護者向け評価表よりいただいた意見から改善できる部分などを話し合う。幸い、うれしい言葉を多くいただいた。 駐車場や階段の急な角度などは安全に配慮していく。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○	1on1や会議等で出た意見に対して、適宜話し合いの場を設けていく。 会議の場などで言えない職員への配慮の方法を探していく。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○	第三者による外部評価を受けたことはないが、社内で監査等で業務についてのアドバイスをいただいている。 必要に応じて第三者による外部評価も検討していく。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○	定期的な社内研修に加えて、外部兼研修もそれぞれが受講できるようにしている。 職員配置や状況によって外部研修に参加できないこともあるので、今後整えていきたい。
適切な支援	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○	支援プログラムの公表を適切に行っている。 支援プログラムが固定化しないようにしている。適宜、固定化されたことにより安心感を感じられる利用者などに配慮していく。
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○	保護者に来所いただきモニタリングを設け、アセスメントを適切に行なながら、課題やニーズにこたえられるようにしている。 週6営業のシフト制勤務により日程調整が難しい場合がある。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○	会議を始め、モニタリング作成前に支援をしている職員から様子を伺うなど、全員で利用児に関わるすべてのことを把握できるよう努めている。 週6営業のシフト制勤務により日程調整が難しい場合がある。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○	計画を立て、会議をおこない、関係機関連携などの情報を常に共有できるようにしている。 口頭で伝えきれない部分はガルーンなどの社内コミュニティを使っている。
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○	アセスメント表を基に日々の行動観察を行い、状況確認をしている。 特にないと思っている。
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○	ガイドラインに沿って計画を作成し、ねらい及び支援内容を踏まえてプログラムを作成している。また、ガイドラインに沿った計画の中でも、利用者のニーズや課題に応えられるよう支援内容を設定している。 特にないと思っている。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	それぞれがプログラムを立てるにあたって、話し合ったり、現状の利用者の情報共有を行い進めている。 全員で話し合う場を定期的には設けることの難しさがある。

援 の 提 供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		担当制ではないため、固定化されることなく、支援を行っている。	ニーズや状況が変わる中での適宜対応していくことの難しさがある。
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	<input type="radio"/>		利用者のニーズによって、個別活動と小集団活動の組み合わせを行いながら、活動している。	定期的に小集団活動を取り入れていきたい。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。		<input type="radio"/>	利用者の状況によってになるが、支援や役割などについて確認し進めている。	支援前に行なうことは日によって(特に長期休みや土曜日)難しいことが多いが、空いている時間で確認を進めている。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		<input type="radio"/>	翌日や社内チャットなどを活用し、情報共有振り返りを行い、全職員が把握できるよう努めている。	支援前に行なうことは日によって(特に平日)難しいことが多いが、空いている時間で確認を進めている。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	<input type="radio"/>		記録漏れがないよう、確認し、支援の検証、改善につながるよう職員間で読むことを進めている。	記録の記入漏れの点検を月一で行っている。会社内に3日以内を守れるよう声掛けを徹底している。
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	<input type="radio"/>		計画更新月を随時確認しながら漏れがないよう、保護者との連携を図り、適切に見直しができるようにしている。	週6営業のシフト制勤務により日程調整が難しい場合がある。
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	<input type="radio"/>		「4つの基本活動」を組み合わせ支援を遂行できるようプログラムを作成し、支援を進めている。	4つの基本活動の中の地域交流の機会の提供については取り入れ方を今後も考慮していく。
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	<input type="radio"/>		支援プログラムの中でも、自己決定ができるようプログラムを組み立てながら、必要に応じて、支援を工夫している。	自己決定する事への苦手さが見られる利用者へは小さいことから自分で決めて行なうこと慣れていくよう取り組んでいく。
	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	<input type="radio"/>		主に児発管が参加させていただき、必要に応じて、指導員または管理者も参加している。	週6営業のシフト制勤務により日程調整が難しい場合があるが、行ける職員で参加できるようにしている。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	<input type="radio"/>		必要に応じて学校との連携を図ったり、各相談支援事業の相談員との情報共有を進めている。	学校との連携をもっと図れるよう関係づくりを進めている。
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	<input type="radio"/>		保護者や学校からの要望や予約調整の兼ね合いで、学校行事等の情報共有も随時行っている。	引き続き、学校の情報を保護者様より教えていただきながら、振替提案や学校での様子などを進めしていく。
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	<input type="radio"/>		必要に応じて、担当者会議等に参加し、情報共有を行っている。	相談員さんとの連携を密に図り、進めいく。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	<input type="radio"/>		まだ実績がなく、わかりかねる部分はあるが、今後必要に応じて対応していく。	実績はないものの、必要に応じて、保護者との連携、障がい福祉サービス事業所への対応を進めしていく。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	<input type="radio"/>		児童発達支援センターの研修を積極的に参加しながら、併用児の情報共有なども進めている。	引き続き、児童発達支援センターとの関係性を良好なものにし、情報共有や助言、研修を積極的に受けしていく。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		<input type="radio"/>	放課後児童クラブや児童館との交流は現在行っていない。	必要に応じて、今後考慮していく。
	33 (自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	<input type="radio"/>		管理者または児発管どちらかが参加できるように努めている。	管理者・児発管が分かれていることで、日程などは合わせやすく、どちらかが参加し、情報共有もできている。
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	<input type="radio"/>		フィードバックの機会や送迎の際に、利用者の状況、課題などは常に共通理解できるよう努めている。	保護者への理解を促すためにも職員間で共有していく。
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	<input type="radio"/>		ペアレントトレーニングの開催で多くの保護者へ参加していただいた。	引き続きペアレントトレーニングの開催を進めしていく。
支援 の 方 法	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	<input type="radio"/>		契約時に丁寧にかつ分かりやすく説明をできるよう心掛けている。	わからないところはないかなどを都度確認しながら、理解できているかを確認し進めている。
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	<input type="radio"/>		支援内容について、理解を求めて、深められるよう、丁寧な説明やフィードバックに努め、家族の意向を確認している。	家族、利用者の意向の把握の難しさや保護者と利用者の意向の相違などがないか丁寧に聞き取りをしていく。
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	<input type="radio"/>		モニタリングを経て、計画の内容を更新の際に丁寧に伝え、支援の意図への相違がないかを確認している。	引き続き丁寧なモニタリングを心掛け、計画への理解を深めていきたい。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	<input type="radio"/>	支援後のフィードバックや必要に応じて、面談などの機会を設け、適宜相談等に対応している。	家族支援の周知に力を入れていきたい。また、相談してよかったと思えるよう、知識を常にプラスシップアップさせてていきたい。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	<input type="radio"/>	ペアレントトレーニングの開催で多くの保護者へ参加していただいた。	定期的な保護者向けイベントを企画していく。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	<input type="radio"/>	いただいた内容について、迅速に職員間で対応、共有しながら進め、うやむやにせず、解決策を講じている。	大きい苦情等は今までないので、引き続き、気を引き締めて、どの保護者利用者とも関わっていく。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	<input type="radio"/>	通信やSNSへの投稿などを定期的にアップを行い、イベント内容や活動の概要の周知などをおこなっている。	SNSを活用した連絡方法や電話などの連絡網を活用し連絡体制を引き続き整えていく。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	<input type="radio"/>	個人情報に関する書類等は十分に配慮し、力付き金庫に保管し丁重に取り扱っている。	引き続き、個人情報の漏洩等がないよう、職員間でも共有認識のもと、意識確認を行っていく。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	<input type="radio"/>	必要に応じて、視覚提示や相違ないかの確認のためのSNS活用などをして、情報伝達に配慮している。	来所時の確認やLINEや通信、事業所掲示などで、お知らせを行いながら、伝達漏れがないよう引き続き行っていく。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		<input type="radio"/>	SNSやパンフレットの配布、営業活動などを通して、地域の方々に事業所の存在を知っていただいている。	地域住民の招待などはできていないので、今後適宜、相談し行っていく。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	<input type="radio"/>	さまざまなマニュアルの策定とともに、月に1度いろいろな災害を想定した訓練を利用者とともに実行している。	訓練の実施を通信などで周知しているが、まだ知らない家庭もあるため、引き続き訓練の状況などを知らせていく。	
非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	<input type="radio"/>	BCPの策定と発生備えた研修・訓練を定期的に行い、職員間での周知徹底を図っている。	避難・救出・その他必要な訓練を隨時行つていただきたい。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	<input type="radio"/>	契約時に、服薬等の確認を行っている。	常に起こりうる可能性を想定し、起こった場合の対応を職員が把握できるよう周知していく。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	<input type="radio"/>	事前にアレルギーの確認を保護者に行っている。おやつ提供の際には含まれるアレルゲンの確認把握に努めている。	提供することは少ないが、事前の確認やアレルゲン情報などは職員全員で周知していく。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	<input type="radio"/>	安全計画を作成し、職員への周知、研修への参加をしながら訓練を行っている。	定期的に研修・訓練への参加を全員でできるようにしていく。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	<input type="radio"/>	契約時に安全確保について説明をしている。	安全確保について職員も保護者同様把握しながら、守れるよう努めていきたい。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	<input type="radio"/>	発声した際には再発防止に向けて、フォーマットに記入し、全体周知を徹底している。	事前に起きた際には迅速に全体把握ができるようにしていく。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	<input type="radio"/>	虐待防止に関する研修に参加し、適切な対応ができるよう努めている。	職員間でも周知を徹底していただきたい。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	<input type="radio"/>	契約時に身体拘束についてのお知らせと、保護者の同意を得て、計画に記載し、周知している。	身体拘束の定義を定期的に見直し、確認していただきたい。	

